

平成 23 年 11 月 29 日、北海道大学学術交流会館において、グリーンテクノバンク・シンポジウム「農業・農村の再生と ICT」～地域情報化の可能性を探る～が開催された。

山本強教授（北海道大学大学院）の基調講演「農業の価値を高めるための ICT の使い方」では、「ICT による農業から農業のための ICT へ」として、ICT の性格を踏まえて農業のサイドからの主体的な取り組みの重要性、ICT は食情報の増幅器であり増幅すべき情報が良質であること前提となることが強調された。

その後、乙部町「地域 ICT 利活用モデル構築」、美唄市「美唄郷土情報による地域活性化モデル事業」、初山別村から「初山別村・暮らし支援ネットワークの構築」の ICT 利用への取り組みが報告され、これを受けて農林水産省産官学連携事業コーディネーター水島俊一氏の司会によりパネリストを交えた討論が行われ、農村における ICT の現状と課題について議論された。アドバイザーの山本強教授から、ICT 環境整備、利用の目標を何処におくかを踏まえた展開が基本である。これからは大量生産、外国との競争などというスタンスから脱却して、農業・農村が楽しく、都会から羨ましがられるようになる情報発信が重要であるとの発言があった。

参加者は、自治体、企業、大学、研究機関など 130 名であった。

